

あえて「効率」をダウンさせてまで…
「要員状況」のきつい東京の方へ…
十分な準備・検討もせず大急ぎで…

7000キロの業務移管を強行

処分と連動させた当局＝動労革マルによる動労千葉つがい攻撃

動労千葉

86. 1. 16

No. 2140

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

千鉄当局は一月十四日の団体交渉において、「61・3ダイ改」にともなう「業務行路の受け持ち変更について」として、七〇〇〇キロにおよぶ千葉の業務の東京三局への移管を提案してきた。動労千葉は席上、当局を徹底追及し、この狙いが、首切り要員の生み出しと、動労千葉破壊にあることを暴き出した。そして直ちに記者会見を行い、この理不尽極まりない攻撃を社会的に暴露するとともに、不当処分粉碎、「61・3ダイ改」・検修合理化阻止の闘いと結合して、二月上旬からの線見阻止闘争を皮切りに第二波闘争へ突入する決意を明らかにした。

業務移管強行を許すな

今回の提案の特徴は、第一に、業務移管という前代未聞の問題を、たった一ヶ月の期間しかない所で提案してきたこと。すなわち、労・資で話し合おうという姿勢が最初からないということ。

第二に、何らの合理的説明ができないにもかかわらず強行せんとしている所にある。津田沼三〇〇〇キロ（総武緩行線）、千葉運転区二〇〇〇キロ（総武快速線）、成田二〇〇〇キロ（我孫子線・常盤線）という仕業移管は、全く理不尽極まりないものである。

当局はこの間、「効率化」を唯一の理由に様々な合理化を強行してきた。しかし、今回の仕業移管については、それすらも主張できず、われわれの追及に対し、「必ずしも『効率化』だけではない、要員等、総合的に判断し、しかるべき所で決定した」と自ら何ら合理的根拠のないものであることを暴露しているのである。

当局「革マル」一体の動労千葉破壊

そもそも「61・3ダイ改」は、七〇〇〇キロの業務移管がなければ、四〇〇〇キロの業増なのである。千葉局の要員状況からして四〇〇〇キロ程度の業増には充分対応できるのである。要員の要素から言えば、むしろもっとと業増してもしかるべき所である。業務移管などもつてのほかと言わざるをえない。

効率的要素はどうか、たとえば我孫子

線・総武快速線の場合、東京に仕業移管をした場合、新たに松戸（我孫子間、東京）田町間の便乗が発生するなど、むしろ効率がダウン、総武緩行線でも基地との関係でいえば効率ダウンは必至なのである。

まさに、いかなる側面から見ても合理的根拠などないのである。

加えて、日本一の業務量の東京に千葉の業務を移管すること事態、理不尽なのである。これは、明らかに革マル松崎と当局が一体となった攻撃である。

二月線見阻止闘争に起て

団体交渉の席上、動労千葉の追及にまともな回答ができず、唯一、理由ならざる理由としてあげたのが、職場規律問題であったことに示されるように、当局の狙いは、①千葉局において「三人に一人の首切りをなすりふりかまわず行うこと。②闘う動労千葉をつぶすことである。③同時にこれは、国労東京と国労千葉との分断（国労破壊攻撃）でもある。

われわれは、不当処分攻撃とからめ、動労革マル（松崎）と当局が一体となつてかけてきたかかる攻撃を断じて容認することはできない。

今後、さらに提案の撤回を求めて行くとともに、当局が理不尽にも強行してくるならば、二月上旬（三月三日まで）の一ヶ月、線見阻止闘争を皮切りに、ストライキも含む、全ゆる手段で闘いに決起し、この「61・3ダイ改」―業務移管阻止に向け闘いぬこうではないか。